

土木学会研究討論会(21)エネルギー委員会

除去土壌等の保管・減容・再生利用に関する 取組状況と今後の課題

< 討論会座長 >

大西 有三

(京都大学名誉教授)

土木学会 エネルギー委員会

低レベル放射性廃棄物・汚染廃棄物対策に関する研究小委員会 委員長

本討論会の主旨

【背景】

- 2011年の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故から約13年半が経過した。除去土壌等対策に関しては、中間貯蔵施設への搬入が基本的に完了し、再生利用実証事業などによる再生資材化方法、土木資材としての品質確保や安全性確認の方法の妥当性検証などが進められている。

【論点】

- 上記のような最近の取組み状況と今後の課題等に関して、3人の専門家より、それぞれの分野での話題提供をしていただく。
- 除去土壌等の問題は、オフサイトのみならず、福島第一原発オンサイトでも課題の一つとなるので、減容・再生利用方法等での連携の必要性や、将来的な最終処分に向けての重要な課題等について、フロアも交えての活発な議論を期待。

【パネリスト】

＜座長＞ **大西 有三** 京都大学名教授

(土木学会 エネルギー委員会 低レベル放射性廃棄物・
汚染廃棄物対策に関する研究小委員会 委員長)

＜話題提供者＞

中野哲哉 環境省 環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官

土田 充 清水建設(株)エンジニアリング事業本部 技術部 主査
(除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合技術委員会 副委員長)

遠藤 和人 国立環境研究所 福島支部 室長

話題提供内容

(1) 中野哲哉 (環境省)

「除去土壌等の保管・減容・再生利用に関する
取組状況と今後の課題」

(2) 土田 充 (清水建設 / 除去土壌等減容化・再生利
用技術研究組合)

「除去土壌等減容化・再生利用技術研究組合
(VOREWS)の取組み」

(3) 遠藤 和人 (国立環境研究所)

「県外最終処分を実現させるための技術的な検討につ
いて」